

平成 26 年度 事業実績報告書



海士の地域・福祉の未来を考える会

社会福祉法人 海士町社会福祉協議会

平成 26 年度 海士町社会福祉協議会事業報告書目次

法人運営に関する事業（会議及び会費・研修会等）	-2-
1. 理事会・役員会・評議員会・監査会・運営協議会	
2. 会員会費及び篤志寄付等	
3. 会議・研修会等	
地域福祉事業	-10-
1. 地域住民の多様な生活・福祉課題に向けたセーフティネット機能	
2. 地域福祉を基盤とした福祉学習の推進	
3. 地域における子育て支援体制の充実・強化	
4. 福祉団体の主体的参加による地域福祉活動の支援	
5. 地域住民の主体的な参加による地域福祉活動の推進	
6. ボランティアセンターの基盤強化とボランティア活動の普及	
7. 民生児童委員協議会	
8. 広報・PR 事業	
9. 共同募金事業	
地域支援事業	-13-
1. 出前サロンこぞって	
2. 認知症高齢者等をかかえる家族に対する支援事業	
3. 食の自立支援事業	
4. 会食サービス	
5. ふれあい・いきいきサロン	
在宅福祉サービス事業.....	-15-
訪問介護部門	
居住（生活支援ハウス事業）部門	
通所介護部門	
居宅介護支援部門	
福祉用具貸与部門	
保健センター事業	-21-

法人運営に関する事業(会議及び会費・研修会等)

【平成 26 年度の重点目標・計画の評価】

1. 安心・安全な地域づくり

○地域福祉活動計画を見直し、各機関や住民との連携のもと第3期地域福祉活動計画を策定する(H31年までの5カ年計画)

→事務局にて第2期地域福祉活動計画の評価と現状課題を確認(4月~9月)

→地域福祉活動計画策定委員を公募し「海士の地域・福祉の未来を考える会」発足(10月)

委員長に阿部裕志氏(巡の環)、20名の委員で構成

幸せ経済研究所所長の枝廣淳子氏アドバイスのもと、3回のワークショップを開催

インプロアドバイザーの鈴木聡之さんを講師に招き、インプロ(即興寸劇)で海士の地域・福祉の未来を表現する

→主任会議、理事会(3月)を経て第3期地域福祉活動計画「生き生きと死ねる島へ」を策定

○生活支援活動強化方針実践プランを地域福祉活動計画に合わせて策定し、生活困難者の救済対策を行う

○生活困窮者自立支援法施行に伴う、相談支援体制を検討する

→第3期地域福祉活動計画に生活困窮者支援の概念を盛り込む

→役場と検討し、自立相談支援事業は福祉事務所が行うこととなった

2. 福祉学習の推進・啓発、福祉人材確保

○住民向け介護教室を開催する(お誘い屋さん養成講座)

→3月12日に島根総合福祉専門学校と共催で介護教室を開催、30名が参加した

○地区座談会を定期的で開催する

→地区座談会として、地域を回るができなかった

○ホームページ等を活用し幅広く海士の福祉を発信する

→ホームページを48回更新、facebookなどSNSでの情報発信を行った

○福祉学習を推進し、福祉人材の確保に努める

→保育園から高校生まで成長過程において一環の福祉体験学習を行うことができた

→島根総合福祉専門学校と共同で実務者研修と海士町スクーリングを行った(参加者4名)

○島外の施設や団体と連携し、海士町の福祉人材確保に努める

→東京で福祉のPRイベントを行い、都会地との福祉人材交流の仕組みができた

島外交流イベント(アイランダー)へ参加 11月22~23日(東京) 浜見・片桐・富谷

WellCON東京 ft. AMA(海士町へ福祉人材を呼ぶためのワークショップ) 片桐・岡本・山中

ワークショップ報告会 2月20日(金) 趣味の部屋

ないものはない海士ツアー 東京から7名の参加者→福祉人材確保のために「Chill-works-AMA」

3. 法令遵守と制度の把握

○法令を遵守し、適正なサービスを提供する

→介護保険事業の実地指導を受け、適正な事業展開を確認することができた

○平成27年度の介護保険制度改正による新制度を熟知する

→主任を中心に、制度理解を深めた

4. 災害に強い地域づくり

○行政と連携し、地域の防災に対する計画(災害時における対応マニュアル)を作成する

→役場防災担当と協議し、海士町防災計画に災害時の対応を盛り込む方向付けができた

- 県内外で災害が発生したとき、災害支援として現地に職員を派遣する
→広島安佐区災害では派遣（島前高校学生 20 名希望）の準備を行ったが、派遣前にセンターが閉鎖されたため派遣できなかった

5. 社協組織の強化

- 職員同士のさらなる共力のもと、職員一体となって海士町の福祉の向上に努める
→職員全体でのボランティア活動や職場の整備などチームワークの向上を図った
- 県社協等の指導を受けながら社会福祉法人新会計基準への移行を行う
→説明会や研修会で研鑽を積み、平成 27 年度の予算から新会計に移行した

6. 障がい者雇用

- 事業所として障がい者雇用をモデル実践し、海士町の障がい者雇用拡大を目指す
→障がい者雇用 1 名（通所介護 介護補助員）
東部高等技術校面談（5 月 27 日） 就労支援会議（5 月 13 日 6 月 24 日）
→さくらの家・清掃業務についてのケース検討会（4 月 23 日）
→洗車業務実習受け入れについて検討会（9 月 29 日 11 月 25 日 12 月 15 日） 3 月 1 日～実習

7. 視察や実習の受け入れ・実践発表

- 視察や体験・実習を積極的に受け入れ、福祉の理解や繋がりに努める
- 実践発表を行い、海士町の福祉の現状と課題を全国に伝える

<実践発表>

- 6 月 14 日（土）日本地域福祉学会 島根県民会館 「情緒で繋がる島 海士町」 片桐一彦
- 11 月 9 日（日）WellCON 出雲 CaféLINQ 「ないものはない 福祉」 片桐一彦
- 1 月 22 日（木）山口県萩市田万川町地域づくり勉強会
「人口 3 千人以下だからできる幸せな地域づくり」 片桐一彦
- 2 月 10 日（火）WellCON 東京 「海士町へ福祉人材をよぶために」 岡本真実 山中仁
- 3 月 19 日（木）竹川ゼミ福祉講演会 鳥取大学 「片桐一彦と語る会」 片桐一彦

<視察受け入れ>

- 6 月 28 日 鴨島病院
- 7 月 29 日 瑞穂西デイサービスセンター
- 8 月 14 日 トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校
- 9 月 5 日 鳥取大学 竹川ゼミ
- 9 月 22 日 島根総合福祉専門学校
- 11 月 4 日 愛知県議会議員
- 12 月 2 日 鳥取大学 学生
- 12 月 3 日 日立製作所イノベーション研修



介護塾の様子（2015_3_12）

1. 理事会・役員会・評議員会・監査会・運営協議会

(1) 理事会

第1回	平成26年5月21日(水)	趣味の部屋	出席8名
議題	1. 平成25年度事業報告・決算報告について 2. 監査報告 3. 平成26年度第1回補正予算(案)について 4. その他		

第2回	平成26年6月1日(日)	趣味の部屋	出席8名
議題	1. 会長の選任について 2. 副会長の選任について 3. 職務代理の指名について 4. その他		

第3回	平成26年12月19日(金)	趣味の部屋	出席8名
議題	1. 給与規程の一部改正について 2. 経理規程の改正について 3. 嘱託職員就業規程の一部改正について 4. 平成26年度第2回補正予算(案)について 5. その他		

第4回	平成27年3月27日(金)	趣味の部屋	出席7名
議題	1. 平成26年度第3回補正予算(案)について 2. 嘱託職員就業規程の一部改正について 3. 平成27年度事業計画・予算(案)について 4. 第3期海士町地域福祉活動計画(案)について 5. 評議員の選任について 6. その他		

(2) 役員会

第1回	平成26年5月19日(月)	会長室	出席3名
議題	1. 平成26年度第1回理事会提出議案について 2. その他		

第2回	平成26年12月18日(木)	会長室	出席3名
議題	1. 平成26年度第3回理事会提出議案について 2. その他		

第3回	平成27年3月26日(木)	会長室	出席3名
議題	1. 会長専決事項について 2. 平成26年度第4回理事会提出議案について 3. その他		

(3) 監査

- 内部経理監査 5月16日(金) 監査担当 亀谷美也子 村尾 清
- 海士町社会福祉協議会監査会 5月19日(月) 監査員 村上良夫 村尾隆久
- 介護保険事業実地指導 7月22~23日 島根県高齢者福祉課
- 財政援助団体監査 11月5日(水) 海士町監査員 中本勝利 高松照佳

(4) 評議員会

第1回	平成26年5月22日(木)	趣味の部屋	出席14名
議題	1. 平成25年度事業報告・決算報告について 2. 監査報告 3. 平成26年度第1回補正予算(案)について 4. 理事(9名) 監事(2名)の選任について 5. その他		

第2回	平成26年12月19日(金)	趣味の部屋	出席16名
議題	1. 給与規程の一部改正について 2. 経理規程の改正について 3. 嘱託職員就業規程の一部改正について 4. 平成26年度第2回補正予算(案)について 5. その他		

第3回	平成27年3月27日(金)	趣味の部屋	出席14名
議題	1. 平成26年度第3回補正予算(案)について 2. 嘱託職員就業規程の一部改正について 3. 平成27年度事業計画・予算(案)について 4. 第3期海士町地域福祉活動計画(案)について 5. その他		

(5) 運営協議会(主任会議)

	日 時	主な議題
第1回	4月8日(火)	こぞって・厚生会のあり方について
第2回	5月28日(水)	島前高校福祉学習・平成25年度決算について
第3回	6月24日(火)	健康増進部門の今後の考え方について
第4回	7月23日(水)	介護保険実地指導を受けて
第5回	8月26日(火)	運営規程の見直しについて
第6回	9月30日(火)	職員が長期で休むときの対応について
第7回	10月29日(水)	障がい者雇用にかかる実習について
第8回	11月26日(水)	老人会やサロンが無い地区への支援について
第9回	12月10日(水)	保健センターの改修について
第10回	1月7日(水)	平成27年度予算について
第11回	2月25日(水)	今後の経営について
第12回	3月16日(月)	第3期海士町地域福祉活動計画について

2. 会員会費及び篤志寄付等

※順不同・敬称略で掲載しています

(1) 会員会費 合計 2,087,100円 (H25 2,062,600円)

○一般会員(年額1,900円) 1,651,100円 (H25 1,660,600円) <納入率92%>

<地区名>	<納入世帯数>	<金額>
菱 浦	174世帯 (174)	330,600円
福 井	36世帯 (31)	58,900円
西	45世帯 (38)	72,200円
中 里	113世帯 (113)	214,700円
東	128世帯 (128)	243,200円
北 分	109世帯 (60)	114,000円
宇 受 賀	68世帯 (68)	129,200円
豊 田	44世帯 (44)	83,600円
保 々 見	25世帯 (25)	47,500円
知 々 井	42世帯 (38)	72,200円
御 波	66世帯 (59)	112,100円
多 井	11世帯 (11)	20,900円
崎	73世帯 (71)	134,900円
日 須 賀	9世帯 (9)	17,100円

※納入世帯()は賛助・特別会員・生活保護・施設入所世帯等を除いた世帯数

○特別会員(1口 10,000円) 330,000円 (H25 320,000円)

<会員名>	<納入額>	<会員名>	<納入額>
飯古建設	100,000円	信栄堂印刷	10,000円
島根県農協海士支店	10,000円	北峯工務店	20,000円
元吉燃料(有)	20,000円	割烹いけだ	10,000円
山陰合同銀行海士支店	10,000円	亀田商店	10,000円
八幡鉄工所	10,000円	桑本石油店	10,000円
(有) 奈伎良海運	20,000円	ファミリーショップくわもと	10,000円
三好石油店	10,000円	ムコヤマ	10,000円
わきたに商店	20,000円	ブックスたなか	10,000円
隠岐国商工会	10,000円	ゆうでん	10,000円
岡田石材店	10,000円	中ノ島クリーンセンター	10,000円

○賛助会員(年額3,000円以上) 91,000円 (H24 70,000円)

<会員名>	<納入額>	<会員名>	<納入額>
山内 道雄	10,000円	脇谷 英孝	10,000円
澤田 恭一	5,000円	花岡 重利	5,000円
田中 久夫	5,000円	若林 宣男	5,000円
野津 明子	3,000円	片桐 憲一	5,000円
町議会一同	30,000円	大森 芳信	5,000円
浅野 桃代	3,000円	片桐 一彦	5,000円

○団体会員(年額5,000円以上) あま福祉会 10,000円 NPO だんだん 5,000円

(2) 篤志寄付金等 合計 1,230,000 円

※順不同・敬称略で掲載しています。

○香典返しとして 34件 1,030,000 円 (H25 1,160,000 円)

<氏名>	<氏名>
横棚 秀次	上田 厚子
佐藤 孝行	政木 愛子
宇野 寿彦	藤田 フミヨ
福山 桃代	村尾 善則
中島ノリ子	矢谷 光史
脇田 哲也	浜 春夫
和巻 邦守	大森 民子
中村ハナ子	黒田 敦
波多武次郎	村井 宏
平田 文夫	波多 紀昭
村尾 明秀	小谷 哲郎
五島 伸子	澤田 喜直
山根 順一	岡本 弘
渡辺 勝則	吉元 たか子
中山 忠範	波多 史夫
波多 一久	斎藤 巖
新脇 澤雄	永井 勝正

○見舞い返しとして 4件 110,000 円

<氏名>
扇谷 美幸
銭谷 トシ子
中前 ミチ子
寺下 雅人

○篤志寄付金として 5件 90,000 円 (H25 10,000 円)

<氏名>
大下 茂
下谷 貴美子
中畑 房子
匿名 2件

3. 会議・研修会等

(1) 役員部門

会議・研修会名	開催月	場 所	参加者
市町村社協会会長会・研修会	7月	松江市	榊原信也
トップミーティング	8月	浜田市	榊原信也
隠岐地区社協連絡会	10月	知夫村	榊原信也
社会福祉法人監事研修会	2月	松江市	村尾隆久

(2) 事務局・地域福祉部門

会議・研修会名	開催月	場 所	参加者
助成金に関する説明会	4月	海士町	地域福祉部
産業保健連絡会	4月	海士町	藤田幸子
CSW 役員会	4月	出雲市	瀧川千恵子
島根県民生児童委員協議会事務局長会議	4月	松江市	片桐一彦
障害支援区分認定 市町村審査委員会研修会	5月	西ノ島	片桐一彦
安心ネットワーク事業連絡会	6月	海士町	和泉洋三
社会福祉法人集団指導監査	6月	隠岐の島町	片桐一彦
日常生活自立支援事業専門員研修連絡会	6月	松江市	和泉洋三
地域福祉推進委員会	6月	松江市	片桐一彦
共同募金事務局長会議	6月	松江市	片桐一彦
日本地域福祉学会	6月	松江市	地域福祉部
福祉人材確保検討会	6月	海士町	片桐一彦
手をつなぐ親の会総会	6月	海士町	片桐・瀧川
しまね流自治会区情報システム説明会	7月	松江市	和泉洋三
生活困窮者自立支援ネットワーク会議	7月	松江市	片桐一彦
福祉人材確保検討会	7月	海士町	片桐一彦
社協・生活支援活動強化推進委員会	8月	松江市	片桐一彦
島根県ボランティア活動振興センター	8月	松江市	片桐一彦
新会計移行説明	9月	西ノ島町	事務局
すみよい町づくり計画策定会	9月	海士町	片桐一彦他
社会福祉主事スクーリング	10月	横浜市	藤田幸子
隠岐地区社協連絡会	10月	知夫村	片桐一彦
社会福祉法人会計研修	11月	浜田市	瀧川千恵子
買い物支援事業報告会	11月	海士町	片桐一彦
地域共生型福祉セミナー	11月	松江市	和泉洋三
共同募金事務局長等会議	2月	松江市	瀧川千恵子
わくわく部会	2月	松江市	片桐一彦
自立支援協議会	3月	海士町	片桐一彦
生活福祉資金制度見直し説明会	3月	松江市	瀧川千恵子
市町村社協事務局長会議	3月	松江市	片桐一彦
地域福祉推進委員会	3月	松江市	片桐一彦
海士町サービス調整責任者会議	3月	海士町	片桐一彦
入所判定会議	毎月	海士町	片桐一彦

○職員会議 4月1日(火) 全職員 於) 趣味の部屋
3月31日(火) 全職員 於) 趣味の部屋

(3) 職員研修

○復命研修

研修会名	研修日	参加人数	講師・発表者
個別援助計画	6月16日	28名	佐々木・伊藤
介護保険制度と通所介護機能訓練について	8月5日	26名	山中 仁
論理的にものを考え、科学的な仕事で効果をあげる	10月10日	29名	佐々木紀美
介護保険法改正について	10月20日	27名	亀谷美也子
感染予防研修	10月21日	26名	佐々木裕之
職業倫理と権利擁護について	11月12日	26名	瀧川千恵子
メンタルヘルスと経営理念	11月14日	28名	佐々木裕之
魅力ある職場作り研修	12月1日	31名	佐々木裕之
人を援助することの意味を問い直す	12月5日	28名	佐々木紀美

○職員研修

「メンタルヘルス研修」7月28日（月）於：趣味の部屋
介護支援専門員模擬試験10月1、6日 於：趣味の部屋

「介護の魅力発信講座」 11月10日（月） 於：マリンポートホテル
「自衛術研修」 1月28日（水）於：開発センター

「救急救命講習」 2月18日（水）於：保健福祉センターホール



介護の魅力発信講座（2014_11_10）

地域福祉事業

【平成 26 年度の重点目標・計画の評価】

1. 地域住民及び関係機関とのネットワーク機能の強化

- 地域に出向き、潜在する課題を発見し包摂会議等活用し支援を行う
- 福祉会やボランティア団体等と協働して地域の福祉課題に取り組む
- 関係機関と連携し、生活困窮者等多様な相談対応を行う
 - 民生児童委員との実態調査をもとにケース検討を行い、関係機関と連携し支援を行った
 - 地域住民やボランティア団体と協働した取組はできなかった

2. 地域の福祉活動、ボランティア活動の強化

- 保育園・学校（小中高）・地域住民の福祉体験学習や福祉講座を開催する
- 年 1 回ボランティア活動の日を設け住民に PR し実施する
- 住民主体の福祉活動の積極的な支援を行う
- 地域福祉大発表会において福祉活動の意識啓発及び住民同士の連携を強化する
- あいサポート運動の推進を図り、住民への障がい者に対する理解に努める
 - 保育園交流、小中高校生の福祉学習、地域住民の介護講座（3月）を実施した
 - 11/3 をボランティア活動の日と位置づけイベントを行ったが、ボランティアの日という意識をもたせることができなかった
 - 小学生のあいサポート研修を行った
 - 住民主体の福祉活動（会食、サロン、福祉活動等）支援については全地区できなかったが、主体的に活動ができにくい地区への活動プログラムを提案し試行的に行った（1地区）

1. 地域住民の多様な生活・福祉課題に向けた総合相談・セーフティネット機能

- 権利擁護等総合相談
（民生融金 1 件 修学資金貸付 0 件 日常生活自立支援 0 件 ）
- 日常生活自立支援事業 相談件数 168 件
- 生活福祉資金貸付制度 →生活福祉資金貸付利用者 1 名（修学資金）
- 民生融金貸付 →民生融金貸付利用者 1 名（償還中 1 名）
- 社協包摂会議の実施（毎月第 3 木曜日）
 - 地域調査をもとに、町内の気になるケース職員間で共有する
- 台風前一人暮らし高齢者宅へ声かけ訪問の実施（8月8日）

2. 地域を基盤とした福祉学習の推進

- 新ふるさと福祉学習の実践
 - ・島前高校 2 年生（地域創造コース） 6 月～3 月
出前講座（3 日間） 福祉体験（社協・諏訪苑・福来の里 さくらの家 2 日間）
提案発表 3 月 6 日
 - ・実践発表 8 月 19 日（金） 知夫村社会福祉協議会

- 保育園高齢者交流体験
- サマーボランティアキャンプ 7月30日～7月31日（海士中3年生 17名参加）
- 福祉職場体験 11月17日～19日（海士中学校2年生 1名）
- 海士中学校ボランティア 12月11日（清掃ボランティア）
- 住民向け介護教室 3月12日
- おもいやり文集の発行（海士中・海士小・福井小）
- あいサポート運動 サポーター養成講座実施 4回 48名修了
→小学校むけのあいサポート養成講座を実施（3月）

3. 地域における子育て支援体制の充実・強化

- フリースペース型サロン「温たまたまクラブ」 利用人数（延べ）1,434名（H25 1,624名）
- 子育て支援一時預かり 1件
- 子育てサロン環境整備事業 備品整備（季節用飾り等）
- けいしょう保育園との交流事業
- 放課後児童クラブとのプール事業

4. 福祉団体の主体的参加による地域福祉活動の支援

- (1) 老人クラブ連合会 →理事会・役員会への参加 運動会等各事業への協力
- (2) 海士町身体障害者協会への支援 →総会への参画
- (3) 手をつなぐ親の会への支援 →総会・交流会・意見交換会への参画
- (4) みどり会への支援 →総会への参画

5. 地域住民の主体的な参加による地域福祉活動の推進

- (1) しまね流自治会区地域福祉活動推進事業への取り組み
- (2) 社協・生活支援活動強化活動
- (3) 第3期海士町地域福祉活動計画策定

6. ボランティアセンターの基盤強化とボランティア活動の普及

- (1) ボランティア運営委員会の開催（5回）
- (2) ボランティア活動啓発事業（ボランティア祭り）
テーマ「つながり・助け合い」 赤い羽根チャリティイベントとして開催
○11月3日（月）文化の日 13:00～15:30 参加ボランティア 76名
- (3) 住民が気軽に体験・活動できるようなボランティア活動の環境の整備・相談斡旋
○ボランティア相談 受入希望 12件 活動希望 20件
○ボランティア保険の啓発 122名 ○登録者数 個人 116名（12団体）
①ハーブガーデンボランティア活動（6回開催）
②おはぎづくり・配り活動（2回開催 参加ボランティア数延べ 69名）
③配食ボランティア（月曜日～金曜日）団体登録 5団体 個人登録 6名
・配食ボランティアの集い 6月23日～26日 参加ボランティア数 30名
④手話サークル（全12回）
- (4) ボランティア交流会 8月29日（金）参加者 23名（13団体）
- (5) 学生向けのボランティア体験事業（※2. 地域を基盤とした福祉学習の推進参照）
- (6) 情報発信

- あまボランティアセンターだより「ささえあい」発行（3月）
- ボランティアセンターホームページ作成
- IP告知・あまTVによるボランティア情報発信（ボランティア募集）

7. 民生児童委員協議会

- (1) 定例研修会・専門部会・民生委員活動強化週間の実施
 - 定例研修会（5回） 専門部会（2回）
 - 活動強化週間 5月12日～18日 小中学校 あいさつ運動
訪問カード配布（全戸） あまチャンネル啓発CM放送
- (2) 地域実態調査（通年 9地区）
- (3) 部会活動
 - 高齢者と芋づくり
 - ちびっこ相撲大会時PR活動・保育園交流（よいよい）

8. 広報・PR事業

- あま社協だよりを「海士社協ニュース」にリニューアル 1回発行
- ホームページ ブログ更新 48回
- IP告知 あまテレビにてPR
- 高齢者番付表の発行

9. 共同募金に関する事業

- (1) 共同募金運営委員会・審査委員会の開催
 - 運営委員会 6月19日（木） 2月20日（水）
 - 審査委員会 6月19日（木） 2月20日（水）
 - 監査会 4月18日（金）
- (2) 募金活動
 - 街頭募金・広報車・あまTVによる共同募金の理解と参加
 - 社協ホームページにてPR
 - 募金計画を全戸に配布
 - 懸垂幕・のぼり旗の設置
 - 戸別募金・職域募金・学校募金の依頼
 - 募金箱の設置
（郵便局・農協・キンニャモニャセンター・ひまわり）
 - 赤い羽根チャリティイベントの開催 11月3日（月）
- (3) 募金実績 一般募金 1,789,415円（H25 1,753,049円）
- (4) 広島県豪雨災害義援金 37,157円

地域支援事業

1. 出前サロン（こぞって） 8地区 97名 (H25 12地区 241名)

日時	6/27	9/19	10/31	11/28	12/26	1/30	3/20	3/22	計
地区	日須賀	知々井	保々見	多井	御波	崎	豊田	福井	
人数	7	13	13	6	16	14	12	16	97

○事前調査 民生委員と一緒に事前調査（8地区）

2. 認知症高齢者等をかかえる家族に対する支援事業（介護者の集い）35名（H25 50名）

日時	参加人数	実施内容
5月14日	6名	知夫村遠足
7月25日	8名	ひとてま創作教室
10月28日	6名	西ノ島ツアー（泥染め）
12月17日	9名	クリスマス会 レクリエーション
3月12日	6名（全体30名）	介護塾

3. 食の自立支援事業（月～日曜日） 6,042食（H25 5,849食）

4. 会食サービス 参加人数（延べ）計 949人（H25 1,181人）

地区	実施回数	延べ人数	主な実施内容
菱浦	4	77	交流活動
福井	6	127	花見 クロリティ大会
中里	6	133	ペタンク・クロリティ大会 会食 忘年会
東	6	169	一夜研修 クロリティ大会 健康教室
北分	6	157	クロリティ大会 食事会 カラオケ
宇受賀	6	169	会食 ゲーム 遠足
崎	6	117	交流活動 交通安全教室

9地区（H25）→7地区（H26）

5. ふれあい・いきいきサロン 参加人数（延べ）計 1,723 人（H25 1,797 人）

○ふれあい・いきいきサロン代表者会 2月26日（木） 14名参加

グループ名	実施回数	延べ人数
菱浦にここ会	10	162
いきいきサロンふくい	12	149
中里なかよし会	12	120
おどり愛好会（東寿会）	6	136
北分いきいき友の会	13	287
ふれあい宇受賀	10	244
知々井いちょう福祉会	6	134
御波すずらんの会	11	159
多井よら～や会	15	190
崎野菊の会	13	142
計	108	1,723



保々見地区出前デイスサービス（2014_10_31）

在宅福祉サービス事業

訪問介護部門

【平成 26 年度の重点目標・計画の評価】

1. 住み慣れた地域でその人らしい生活が継続できるよう支援する
 - 認知症・障がい者支援の研修を行い、ヘルパーのスキルアップに努める
 - 各機関との共働き、多様なニーズに対応できるよう努める
 - 個別介護計画の定期的な見直しや評価を行う
 - 2名の職員が定年退職し、人数が減ったため OFF-JT に参加することができなかったが、定期的な連絡会で個別援助計画の見直しや研修を行った。少ない人数で各機関と協力し、多様なニーズに対応するように努めた

2. 組織の円滑な運営に努める
 - 訪問介護マニュアルを作成し、誰が訪問しても同じサービスが提供できるように努める
 - 登録ヘルパーを活用し、円滑なシフト調整に努める
 - マニュアルを作成したが、不十分な形である。継続して、作成に努める

(1) 各種研修会及び会議の開催・参画

会議・研修会名	研修月	場 所	参加者
個別援助計画とケアプランの連結	5月	出雲市	伊藤由紀子
障がい福祉サービス集団指導	3月	松江市	藤田幸子
介護保険集団指導	3月	隠岐の島町	伊藤由紀子
訪問介護広域連合ケアプラン指導	9月		海士町
地域ケア会議	2・4木曜日	海士町	伊藤由紀子
ターミナルケア連絡会	4月9日・8月11日・10月17日		
訪問介護連絡会義	毎週木曜日（年 25回）		

(2) 利用実績

介護保険	稼働時間（介護）	利用人数（介護）	稼働時間（予防）	利用人数（予防）
平成26年度	1,717 時間	2,270 人	1,747 時間	1,786 人

○精神障がい者居宅介護（H26 実績 利用延べ人数 23 名 稼働時間 23 時間）

居住（生活支援ハウス）部門

【平成 26 年度の重点目標・計画の評価】

1. 入居生活の維持・向上に努める

- 入居者の生活状況を職員間で共有する（連絡会の充実）
 - 毎月（第一木曜日）定例の連絡会を開催し、利用者状況の共有を図ることができた
- 他部署と連携しながら、入居者の楽しみある企画を行う
 - 4月お花見 5月お好み焼き 6月連合婦人会交流会 7月中学生サマボラ訪問
8月外食ランチ 9月敬老会 10月民生委員芋ほり交流会 11月寿司バイキング
2月蒸しパン作り 茶話会
- 身元引受人と定期的な連携をとり支援体制の確認を行う（最低年1回）
 - 定期的な身元引受人と面談ができたが、身元引受人がいないケースの対応に苦慮した

2. 安全に安心して暮らすことができる支援を行う

- 感染症対応のマニュアル化を図り、全職員が共力して対応する
- 感染症等の対応物品を整理し、備品を徹底する
 - 看護師 G と協同で物品の整備を行った。マニュアルは看護師が作成、全職員に配布した
- 夜間等を想定した避難訓練を実施する（年2回）
 - 夜間想定での避難訓練を行うことができなかった

（1）利用状況

○入居者数 18 名（3 月 31 日現在）退居者 7 名（他の施設へ）新入居者 5 名

○利用者介護度状況

	認定外	支援 1	支援 2	要介 1	要介 2	要介 3	要介 4
H26	3	3	4	6	1	1	0

○入居者年齢

	～74	75～80	81～85	86～90	91～95	96～100	平均
H26	2	4	5	4	2	1	82.6 歳

○ショートステイ 2 名利用



ボランティア祭に参加し自権術（じきょうじゅつ）を受ける利用者

通所介護部門

【平成 26 年度の重点目標・計画の評価】

1. 職員間の連携を強化する

○報告・連絡・相談を徹底する

→各連絡ノートを作成したことにより、前年度より向上した

○目標に向かって意識の統一を図り、チームワークで仕事をする

→チームワークは良くなってきているが、人任せにすることがあるのが課題

○情報を共有し、質のよいサービスを目指す

→情報は共有することができたが、介護技術面で課題が多い。職場研修を充実させ、質の良いサービスを目指す

2. ご利用者一人ひとりに合わせたサービスを提供する

○ご利用者の思い・ニーズを把握する

→利用者とのコミュニケーションを充実させることで、ニーズの掘り起しができた。それにより、利用者が希望する活動を行うことができた

○常に探究心を持って業務にあたる

→レクレーションやリハビリ体操などは新しい取り組みにつながったが、介護技術に関しての知識向上など今後充実させたい

(1) 各種研修会及び会議の開催・参画

会議・研修会名	研修日	場 所	参加者
生活相談員研修会	5 月	出雲市	佐々木裕之
県老施協 デイサービス部会研修	7 月	松江市	山中 仁
隠岐保健所 感染症対策講習会	10 月	西ノ島町	佐々木裕之
県老施協 研修大会	10 月	松江市	佐々木裕之
県老施協 人材育成研修会	11 月	松江市	佐々木裕之
県老施協カントリーミーティング運営委員会	3 月	松江市	片桐一彦
介護職員実務者養成研修	10 月～3 月	上野綾香 神在祐太	
介護保険集団指導	3 月	隠岐の島町	佐々木裕之
通所介護事業部門連絡会議	1 回/月		全職員
連絡会議（連絡事項・反省会・ケース検討）	毎日		全職員
地域ケア会議	2 回/月		佐々木裕之

○デイサービス職員全体研修

5 月 1 日（水）新人職員研修「着脱介助」

(2) 部会（担当）の編成・運営

○レクレーション 療法部門

お茶会（4月）春の運動会（5月）七夕イベント（7月）ハワイ週間（8月）
 あったか交流会（10月）クリスマス会（12月）・節分（2月）ひな祭り（3月）
 →療法活動は読み聞かせ、唱歌、季節の作品づくり、ちぎり絵、編み物と活動の幅を広げたが、
 活動スペースが無く、レクリエーション活動と重なることが多かった
 →季節感を考えたゲームではダンボール等身近にあるもので道具を作成し経費の削減を図った

○機能訓練部門

島前病院作業療法士指導 月1回

（3）交流事業・実習生の受入れ（※P3 7. 視察受入れ参照）

（4）利用実績

○介護保険通所介護（デイサービス）

介護保険事業実績・認定外者・出前デイサービス 延べ利用者数

	介護給付	予防給付	認定外者 DS (元気はつらつ)	サテライト 出前デイサービス
平成 26 年度	5, 157 (4, 886)	1, 498 (1, 606)	585 (549)	97 (232)

○障がい者デイサービス事業（自立支援法） 生活介護 利用者 2 名



アロハ企画でフラダンスを披露する職員

居宅介護支援部門

【平成 26 年度の重点目標・計画】

1. チームとして連携強化に努める

- 定期的なミーティングでケースや業務の共有認識に努める
- 連絡会の充実を図り、チーム内の連携強化に努める
- サービス担当者会議の充実を図り、利用者及び提供者と目標を共有しながらサービスを展開する
- 保健・医療・福祉の関係機関と連携を密にしてご利用者及びご家族が安心できる支援を行う
→気になるケースや課題解決に関しては随時主任ケアマネとのミーティングを行いながら業務を遂行した

2. 個のスキルをあげる

- チームとしてケアプラン点検を定期的に行い、個別性を重視したケアプランを作成する
- 業務の漏れがないか定期的な点検しながら記録の整備に努める
(個人ファイルの整理の期間や方法をルール化する)
- 事例をもとに病状の理解や生活支援の方法の学習会を定期的に行う
→兼務等によりケアプランのチーム点検や会議等を設けることが難しかった。広域の指導では好評を受けたが、更なる個の力量アップとチームでのケアプラン点検業務に磨きをかけたい

3. 地域住民が安心して相談できる機能を充実する

- 地域住民の総合相談窓口として多様な相談に対応し、関係機関と連携調整する
- 社協包摂会議などを活用して問題解決を行う
→地域住民から介護保険以外の相談を受け、適宜関係機関へとつなげた。社協包摂会議では実際に課題解決には至らなかったが、地域アセスメントを共有する場としては効果的であった

(1) 居宅介護支援事業の円滑な運営 (介護支援専門員設置状況)

- 主任介護支援専門員 1 名、介護支援専門員専従 1 名 兼務 2 名

(2) 居宅介護予防計利用実績 (要支援 1～2) 410 件

(3) 居宅介護計画利用者実績 (要介護 1～5) 857 名/年 (新規 37 名)

(4) 住宅改修・福祉用具購入助成申請実績

- 住宅改修申請件数 6 件/年 ○福祉用具購入費申請件数 12 件/年

(5) 介護支援専門員としての資質向上とチーム力の強化

会議・研修会名	研修月	場 所	参加者
介護支援専門員更新研修Ⅰ・Ⅱ (前期・後期)	6 月/11 月	松江市	瀧川千恵子
介護支援専門員更新研修Ⅱ	9 月/11 月	松江市	片桐一彦
島根県介護支援専門員研究大会	10 月	松江市	亀谷美也子
スキルアップ研修	11 月	松江市	佐々木紀美
介護保険集団指導	3 月	隠岐の島町	亀谷美也子
島前病院入院者アセスメント訪問	通年	西ノ島町	担当ケアマネ
ターミナルケア連絡会			4 月 8 月 10 月
地域ケア会議 (サービス担当者会議)			毎月第 2・4 (木曜日)
居宅支援事業所連絡会			随時開催
諏訪苑入所判定会議		諏訪苑	亀谷美也子
介護認定審査会	隔月 1 回	島前病院	佐々木紀美

福祉用具貸与部門

【平成 26 年度の重点目標・計画の評価】

1. 個別援助計画に基づいたサービスを提供する

- 社協内外のカンファレンスに参画し、個別援助計画及び利用者の情報、ケア方針を共有する
- 個人の身体の状態やニーズに沿ったサービスを展開する
- 職員の資質向上のため各種研修会に参加する
- 法令遵守に則ったサービスを行う
→地域ケア会議や担当者会議を通じて、利用者のニーズに沿った福祉用具を提供することができた提携業者が島外なため、急なニーズ対応を行うことができなかった

2. 安全性に基づいた福祉用具を提供する

- 日本工業規格（JIS）製品を取扱い、衛生管理を徹底する
- 福祉用具に係る事故防止やヒヤリ・ハットに取り組む
- 良質な福祉用具を提供するため、取引先との連携強化に努める
- 取り扱い説明を丁寧に行い、定期的な訪問によるメンテナンスを行う
→定期的な訪問により用具のメンテナンスを図るとともに、利用者の要望に対して、迅速な対応を心がけた

（1）各種会議の参画・研修会による専門知識の向上

会議・研修会名	研修月	場 所	参加者
福祉用具管理行程視察	4 月	松江市	佐々木/村尾
介護保険集団指導	3 月	隠岐の島	村尾 清
地域ケア会議	2・4 木曜日	海士町	村尾 清

（2）利用実績

利用実績（年間貸与延べ台数）

特殊寝台	付属品	エアマット	車いす	スロープ	歩行器	手すり
69 (82)	161 (183)	12 (12)	192 (197)	26 (6)	131 (108)	112 (71)

保健センター事業

【平成 26 年度の重点目標・計画の評価】

1. 持続可能な運営を行う

- 持続可能な運営体制の検討・整備を行う
→保健センター改修を含めた運営の協議を行政と行った（4回）
- 機器の点検や保守を徹底する
→機関故障が相次ぎ、長期休館した（51日）
- 水質検査（1回/月） ○レジオネラ属細菌検査（2回/年）
- ボイラー点検（2回/年） ○ろ過器点検（1回/年）
- 電気設備点検（5回/年） ○消火用設備点検（2回/年）
- 省エネ対策に取り組み、節電・節約を行う
→行政と連携して、電量調査や断熱調査を実施し、省エネ運営の協議を行った

2. 整理・整頓・清掃・清潔の4S活動を継続する

- 整理・整頓・清掃・清潔の重要性を認識し、見えない部分も視て業務を行う
- 施設周りを整備し施設の美化活動を行う
- 社協職員の共力による施設の美化活動を行う
→職員のボランティア活動により施設の美化に努めた

3. 地域住民が利用しやすい施設づくり

- 専門部会を再編し、利用者増を目指す
- 利用者の安心・安全を確保するため、他機関及び他部署と共力し防災に取り組む
- 各団体のイベントや事業に参画し、保健センターの利用者向上に取り組む
→保健所の公衆衛生浴場への検査を受け（指摘事項は無し）衛生的な運営に取り組んだ

（1）各種団体の施設利用支援と発表

- 海士小学校プール教室（7・8月） ○海士町教育委員会生活合宿事業（7月）
- 島前高校テニス合宿・ヒトツナギ活動入浴 ○公立学校共済組合助成事業
- 海士町児童交流事業 ○運動教室事業（プール・エアロビ 1回/月）
- 放課後児童クラブプール事業（7～8月） ○島根県社会保険協会 温泉利用事業

（2）利用実績



